

第4章 保健計画「健康はぎ 21 萩市保健計画」

第1節 計画の位置づけ

1 計画の位置づけ

(1) 健康増進法における位置づけ

本計画は、健康増進法第8条第2項に規定される「市町村健康増進計画」として令和3年3月に策定した「健康はぎ 21 萩市保健計画 第4次（令和3年度から令和8年度）」の「中間見直し計画」にあたります。

令和6年度から適用の健康増進法第7条第1項の規定に基づく「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針（令和5年5月31日公示）」を踏まえ、「健康日本 21 第3次計画（令和6年度から令和17年度）」を推進します。

市民の健康増進を推進するにあたっては、各ライフステージを対象にした対策にとどまらず、胎児期から高齢期に至るまで、人の一生を通して継続した対策を講じる「ライフコースアプローチ」の考え方を取り入れ、健康課題について改めて整理します。栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善に加え、これらの生活習慣の定着等による生活習慣病の発症予防及び重症化予防や感染症対策におけるさまざまな課題を明確にし、対策について見直しを行います。

(2) 関連計画との関係

本計画は、「萩市基本ビジョン」の体系にある個別計画の「萩市健康福祉計画」の中の健康増進分野の施策を示す計画に位置づけられています。

基本ビジョンにおける目指すまちづくり（基本方針）では、「だれもが生きいきと暮らせるまちづくり」における「青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進」、また、「子育ての幸せが実感できるまちづくり」における「妊娠・出産・子育て環境の充実」を目指すものです。

なお、健康増進の栄養分野の計画となる「萩市食育推進計画」、こころの健康分野の「萩市自殺対策計画」、感染症対策分野の「萩市新型インフルエンザ等対策行動計画」との関連性を持たせています。

第2節 現状と課題

本市の出生数は年間 152 人（令和 4 年度実績）と近年減少傾向が続き、少子化が進行していますが、本人や環境に課題を抱える妊婦数は 1 割前後の横ばい状況です。子育てに前向きな意見が減少し、自己肯定感の低さから育児に自信が持てない親が増加しています。また、乳幼児期においては、発育促進や養育支援を必要とする児が毎年一定程度あります。

これらに対応するため、「子育て世代包括支援センターHAGU（はぐ）」を中心に、妊娠期から子育て期に至る周産期の手厚い相談支援がますます重要となっています。

安心して子どもを産み育てることができる環境の充実を図るためには、思春期から結婚、妊娠、出産、育児の各ライフステージにおける、さまざまなニーズに対応した切れ目のない支援と、地域の関係機関との情報共有や連携強化が重要となります。

一方、本市の健康寿命※（令和 2 年度）は、男性 79.60 歳（県内 10 位/13 市中）、女性 85.34 歳（県内 2 位/13 市中）と、年々延伸している状況にはありますが、健康寿命をさらに延ばし QOL（生活の質）を向上させるため、引き続き取組を行う必要があります。

関連要因としての、平均寿命（がん等による若い世代の死亡関連）の延伸や脳血管疾患等の死亡率の低減を実現するためには、食生活実態調査や健診結果に基づき、予防の視点に立った各種対策が必要となります。

節塩やバランスの取れた食事、運動習慣などの自発的な健康行動の促進や、若い世代からのがん対策等の強化が重要となります。

また、令和 2 年から世界的規模の感染症対策が講じられた新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、従来の感染症や今後起こりうる新興感染症も含めて、感染症の発生予防やまん延防止のためには、平時から迅速かつ的確に対応できる対策が重要となります。

※健康寿命：WHO が提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間です。

いわゆる、介護を受けたり寝たきりになったりせずに、日常生活動作が自立している期間の平均です。

介護保険の要介護度の要介護 2～5 を不健康（要介護）な状態とし、それ以外を健康（自立）な状態とみなしています。

第3節 今後の取組の方向

1 基本方針

～市民が生涯を通じて 住み慣れた地域で

いつまでも 安心して暮らせる 健康づくり～

- ・ 予防に重点をおいた健康づくり
- ・ 科学的根拠に基づいた健康づくり
- ・ 健康づくりをとおした地域づくり

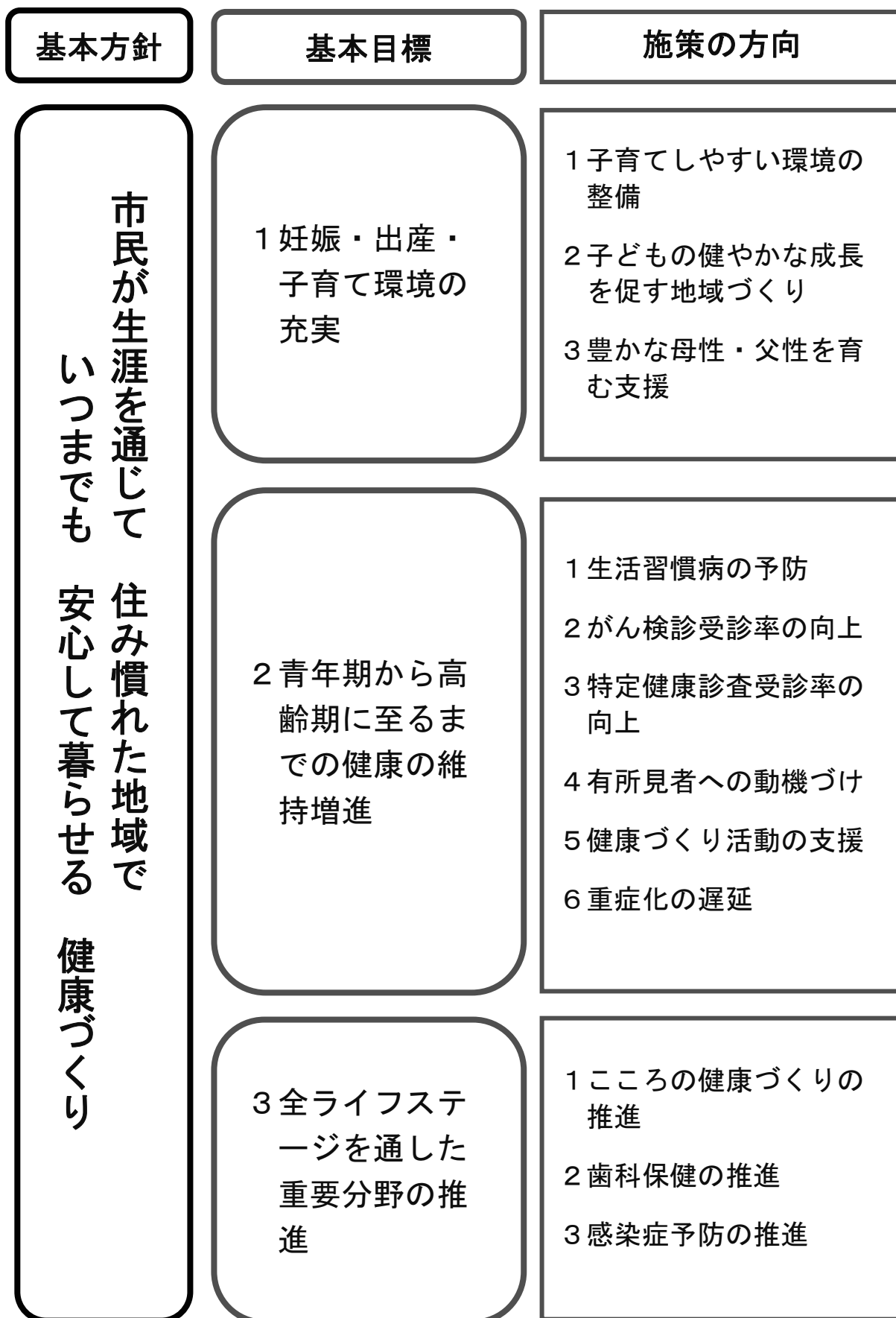
2 基本目標

基本目標1 妊娠・出産・子育て環境の充実

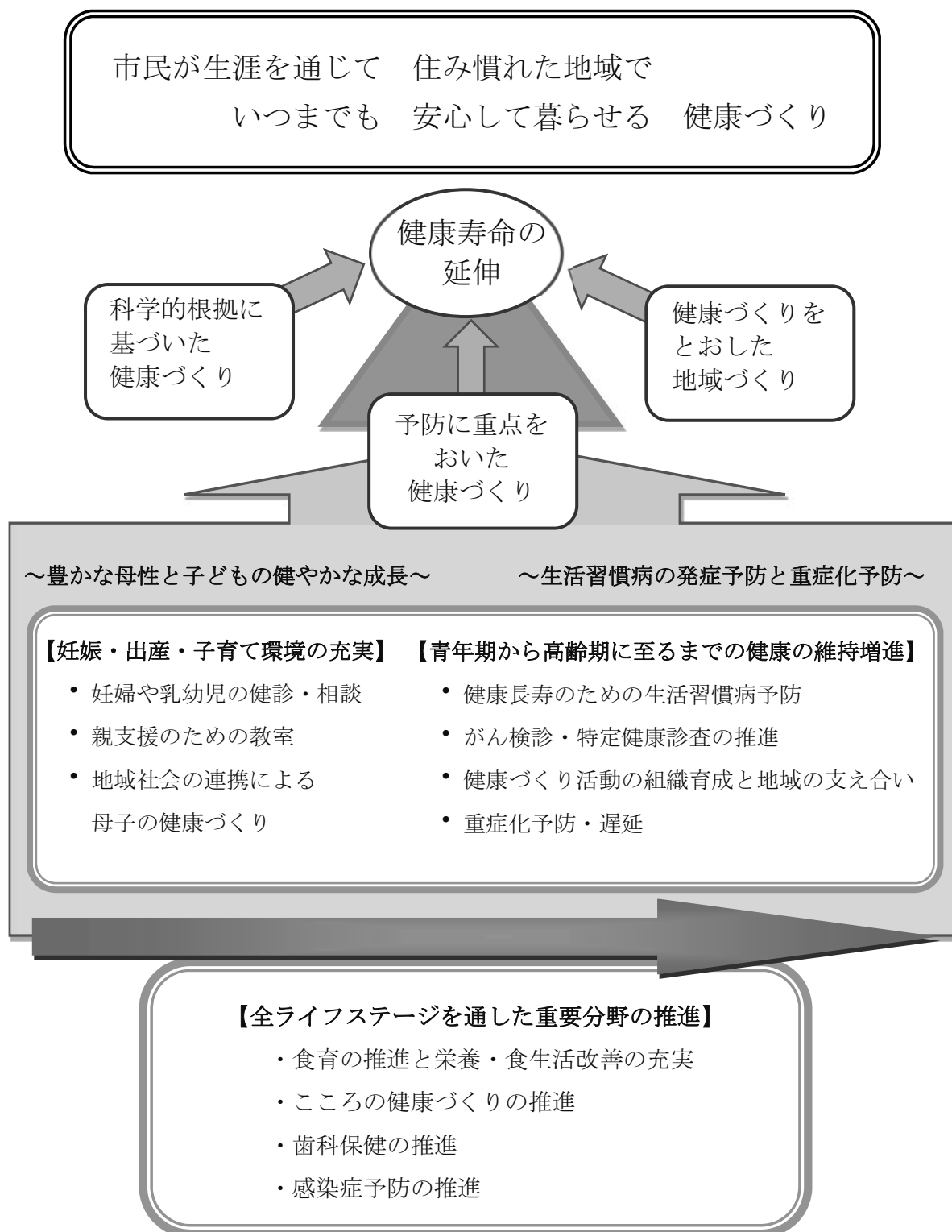
基本目標2 青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進

基本目標3 全ライフステージを通じた重要分野の推進

3 体系図



計画推進イメージ図



第4節 取組の内容

基本目標1 妊娠・出産・子育て環境の充実

子どもが地域で健やかに生まれ成長していくためには、母親が安心して出産し、家族や地域とのふれあいの中で、子ども自身が多くの経験を重ね、適正な価値観と健康的な生活習慣を身につけることが重要です。

本市では「妊娠・出産・子育て環境の充実」を目指し、以下のことに取り組みます。

- ・妊娠期からの継続した支援を行い、関係機関や地域とともに子育てしやすい環境の整備に努めます。
- ・母子に関わる関係機関と連携し、迅速かつ的確に対応できる体制を整えます。
- ・保護者、住民組織、関係機関が、子どもの自己肯定感^{*}を高めるための関わりができるように支援します。

^{*} 自己肯定感とは、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在だ」と思えるこころの状態

1 子育てしやすい環境の整備

【現状と課題】

表1 HAGU 相談実績

(人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
電話		53	68	76	73	156
来所	(妊娠届)	183	182	163	152	145
	(その他)	331	633	745	623	378
メール		0	2	0	6	0
合計		567	885	993	854	679

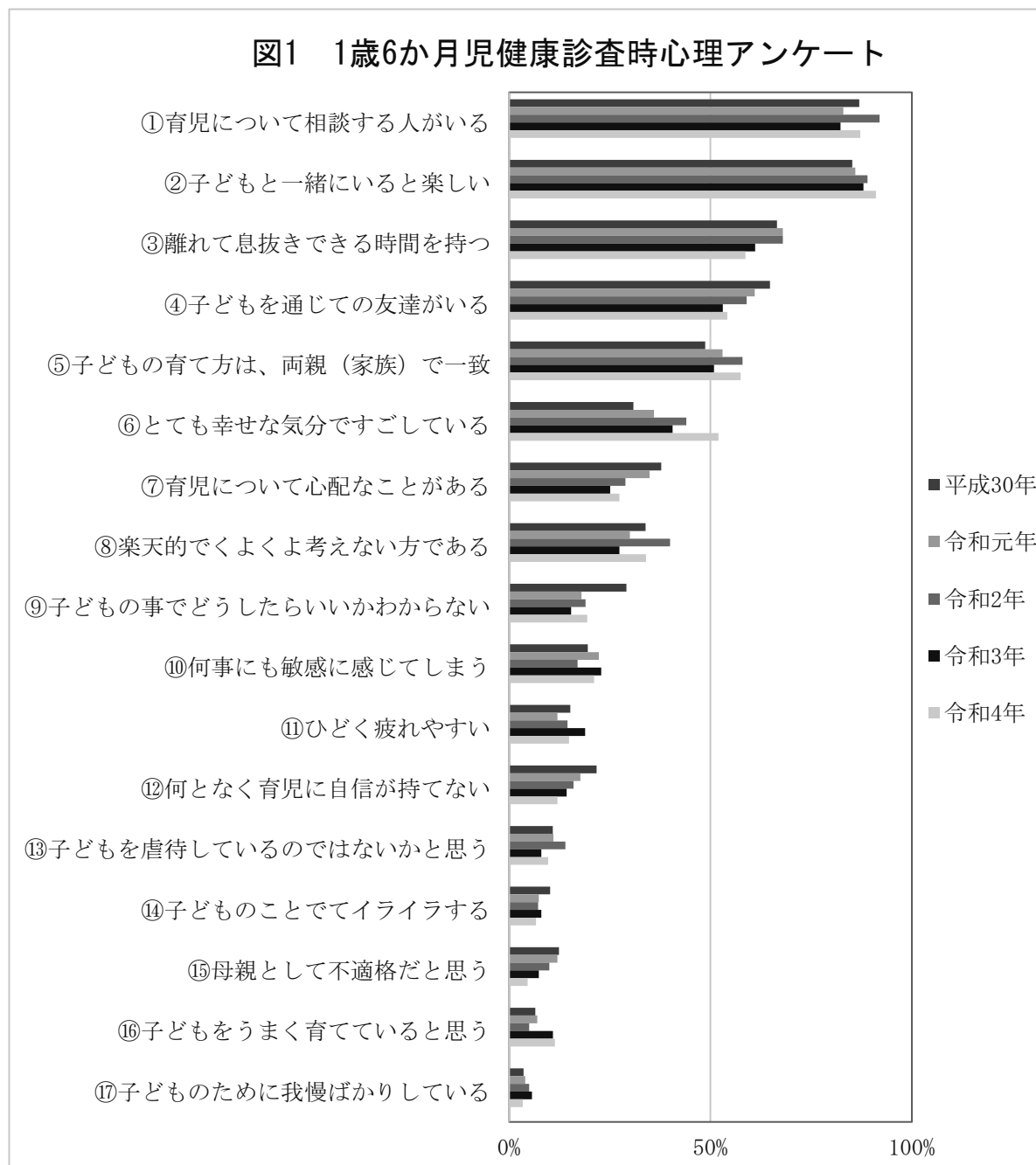
萩市健康増進課実績

表2 1人当たり HAGU 相談回数

(人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1回	47	63	83
2回	24	34	22
3回	59	59	37

萩市健康増進課実績



萩市1歳6か月児健康診査アンケート

平成29年10月に子育て世代包括支援センターHAGUを開設し、悩み・不安の軽減、継続した支援を図るため母子保健コーディネーターと地域担当保健師の連携により、相談体制を充実してきました。P198・表1によると、子育て世代包括支援センターHAGUについては、出生数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも一定程度の利用者があります。HAGUでは、対面相談を重視するとともに、電話での状況確認を積極的に行っていますが、令和4年度よりアプリを活用したオンライン相談を導入し、より相談しやすい環境の整備を行いました。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

相談内容は、「子どもの発育（体重）に関すること」が多く見られますが、この相談をきっかけとして、さまざまな育児の悩みの相談に繋がる傾向があります。

1歳6か月児健康診査アンケートによると、子育てに前向きな意見が減少し、育児に関する保護者の自己肯定感の低さがうかがえることから、親子の愛着形成や自分にあった子育て方法を見つけてもらうための教室の展開、母子アプリを活用した育児情報の発信を積極的に行っています。

また、令和5年2月より、出産・子育て応援事業を開始しました。経済的支援の他、出産・育児等の見通しを立てるための面談や継続的な情報発信等を行う伴走型支援により、出産・子育ての不安軽減に努めます。

【課題に対する目標】

- ・ 保護者が適切な時期に適切な支援を受けられる。
- ・ 地域がみんなで子育て中の保護者を支援できる。

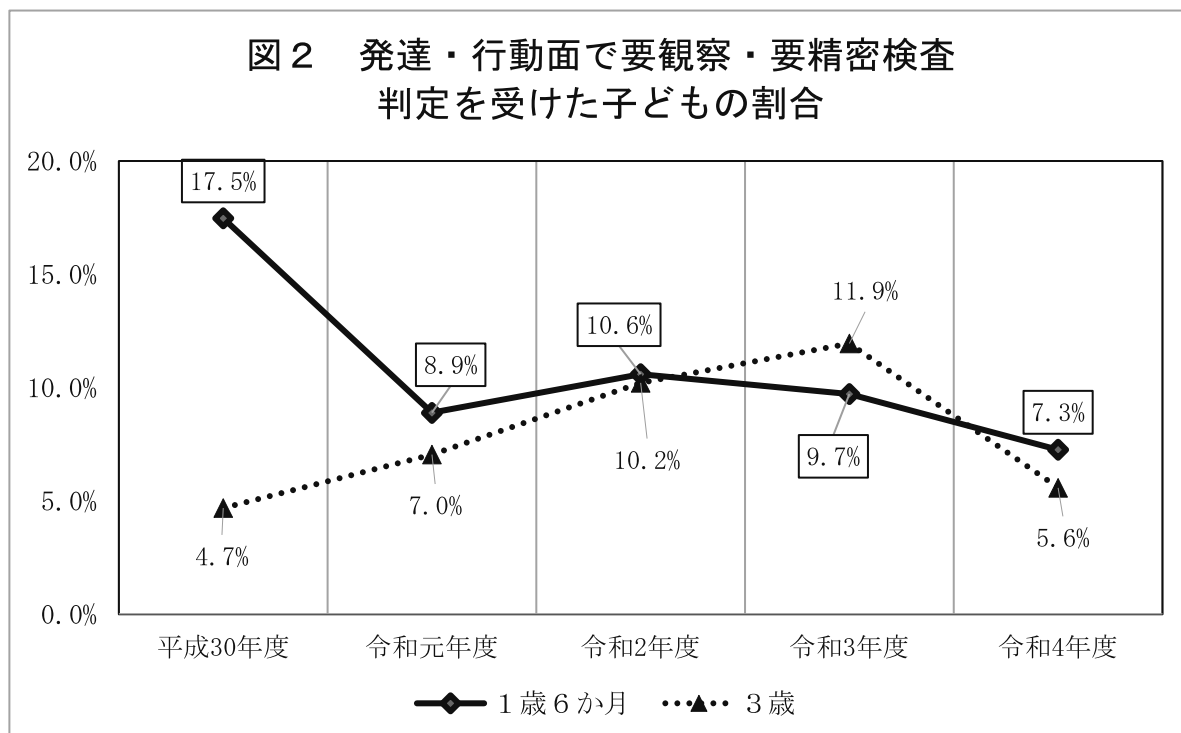
【取組】

- ① 切れ目のない支援に取り組みます。
 - a 子育て世代包括支援センターHAGUを中心として、妊娠期から子育て期まで継続した支援と、来所時の丁寧な相談体制整備を行います。
 - b 母子保健事業と子育て世代包括支援センターHAGUが連携をしながら、すべての子どもが健やかに育つための保護者支援を展開します。
 - c 保護者が出産・育児等の見通しが立てられるよう、面談や継続的な情報発信を行う伴走型支援を行います。
- ② 保護者支援のための体制整備に取り組みます。
 - a 母子支援のための教室では、参加者が抱えている子育ての悩みや関心を参加者同士の話し合いを通じて、愛着形成の促しや自分にあった子育て方法を身につけるため、参加者中心型プログラムの教室を開催します。
 - b 「母子アプリ はぎ HAGU」など、さまざまな媒体を活用し、保護者が必要な時に必要な支援が受けられる環境整備に取り組みます。
- ③ 子育て支援者の育成に取り組みます。
 - a 地域の支援者となる保健推進員が、子育て中の保護者が抱える問題について理解し、支援ができる場を作ります。地域での声かけ、見守り、保護者支援のための教室へのサポートを担ってもらえるよう、協力体制を強

化します。

2 子どもの健やかな成長を促す地域づくり

【現状と課題】



萩市1歳6か月・3歳児健診受診結果より

1歳6か月児健診・3歳児健診の結果において、発達・行動面で要観察・要精密検査判定を受けた子どもの割合は、年度によって増減はありますが、概ね5%から10%で推移しています。さらに、保育所・認定こども園や健診会場などの集団の間では、支援が必要と思われる子どもが多く見られます。

これは、子どもが持っている要因だけでなく、育児環境等複数の要因が絡み合っていることも考えられます。このため、1歳6か月児健診・3歳児健診での早期発見・支援以外にも、5歳児（年中）園訪問等の定期的園訪問の実施や保育士・園教諭と相談のできる関係づくりを行っています。これらの活動を通して、保護者の「気づき」に対する早期支援、療育等が必要と思われる児への早期支援に努めています。

【課題に対する目標】

- ・発達支援が必要と思われる子どもが早期の療育につながる。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

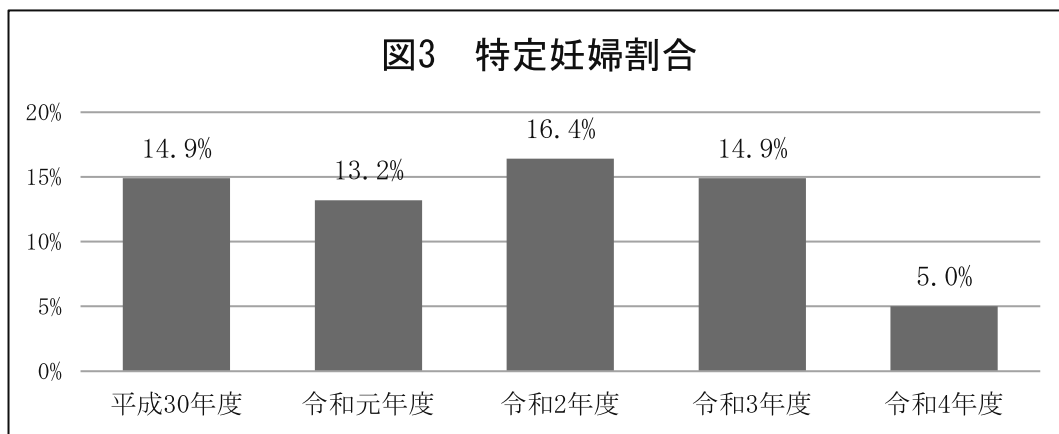
- ・保護者が子どもの発達全体を受け止められる。
- ・すべての関係機関が連携し親子を支援できる。

【取組】

- ① 乳幼児健診の充実・強化、結果管理や事後支援の徹底に努めます。
 - a 発達支援の必要な子どもを発見した時の支援方法の統一化を図ります。
 - b 保育所・認定こども園や医療機関と連携して支援を行います。
- ② 5歳児相談会等の効果的運用に努めます。
 - a 就学までに1年以上ある年中児の中で、支援の必要性や必要な支援内容を把握し、早期療養等の支援につながるよう取り組みます。
 - b 5歳児相談会以外にも、個別相談を実施することにより、早期の療育等につながるよう取り組みます。
- ③ 保育所・認定こども園との連携強化に努めます。
 - a 保育所・認定こども園への定期的な訪問や5歳児相談の園訪問を実施します。また、園訪問等を通して、保育士や園教諭と互いに相談し合う関係づくりに努めます。
- ④ 療育システムの改善に努めます。
 - a 「萩市自立支援協議会こども支援部会」の会員として保健師も参加し、本市の現状に沿った効果的な療育システムの構築ができるよう努めます。
 - b 各相談会や教室等の受入基準・制限の明確化、支援が必要な時期に必要な支援が受けられない場合の対応方法等について検討します。

3 豊かな母性・父性を育む支援

【現状と課題】



萩市妊娠届時アンケートより

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

何らかの問題を抱えている特定妊婦[※]の割合は、年度によって増減はありますが、概ね15%前後となっています。「貧困」、「予期せぬ妊娠」や「若年妊娠」など、複雑な事情を多数抱えるケースも増えており、出産後に適切な育児行動がとれるように支援する必要があります。

このため、妊娠届出時に丁寧な聞き取りを実施し、特定妊婦の把握に努めています。妊婦の困り感の早期発見と支援、さらに、出産後の子どもの養育が心配される場合には関係機関との連携を強化しています。また、思春期出前講座やファミリー教室など、各ライフステージに応じた教室を開催し、相手を思いやる意識の醸成を図り、母性・父性の健全育成を目指しています。

※特定妊婦：出産後の子どもの養育について出産前において支援を行うことが特に必要な妊婦

【課題に対する目標】

- ・思春期を含めたすべての女性とそのパートナーが、自らが望む時期に妊娠するための行動がとれる。
- ・何らかの問題を抱えた妊婦が、妊娠早期から適切な養育支援を受けられる。

【取組】

- ① 思春期相談や不妊・不育に関する相談、妊娠届出時など各ライフステージでの相談体制を整備し、特定妊婦の的確な把握と早期支援に努めます。
- ② 教育委員会（学校）と連携し、本市の実情にあった思春期保健教育やプレコンセプションケア[※]の推進について、学校とともに検討・実施します。
- ③ 思春期の児童・生徒には思春期出前講座を実施し、妊娠期には妊婦とパートナーに対して参加型の教室を実施することで、相手を思いやる意識の醸成を図り、母性・父性の健全育成を目指します。

※将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

基本目標2 青年期から高齢期に至るまでの健康づくり

長生きをするだけでなく、いつまでも健康で元気に暮らすことができるよう、働き盛りとなる青・壮年期からの食事・運動などの生活習慣の改善や疾病予防をはじめ、それぞれの年齢に応じた健康づくりを継続するなど、健康寿命の延伸に取り組めます。

1 生活習慣病の予防

【現状と課題】

表3 令和3年死因順位 全国・山口県・萩市

死亡順位	萩市		県		国	
	疾病名	割合	疾病名	割合	疾病名	割合
1位	悪性新生物	24.9%	悪性新生物	25.3%	悪性新生物	26.5%
2位	心疾患※	17.3%	心疾患※	16.6%	心疾患※	14.9%
3位	脳血管疾患	10.0%	老衰	9.5%	老衰	10.6%
4位	老衰	9.5%	脳血管疾患	8.0%	脳血管疾患	7.3%
5位	肺炎	8.5%	肺炎	7.1%	肺炎	5.1%

※高血圧性心疾患を除く

厚生労働省：令和3年人口動態統計

山口県厚生課：令和3年保健統計年報

表4 萩市疾病分類別統計表

(疾病中分類集計)

疾病名	令和元年度	令和4年度
高血圧性疾患	30.2%	29.0%
糖尿病	10.6%	11.0%
脂質異常	8.7%	8.7%
統合失調症	4.8%	4.8%
その他の心疾患	3.1%	3.2%
気分障害	3.1%	2.7%
脳梗塞	2.6%	2.5%
神経症・ストレス関連	2.4%	2.1%
虚血性心疾患	1.9%	0.6%

表5 介護保険認定状況

(第2号被保険者)

疾病名	令和元年度	令和5年度
脳血管疾患	68.8%	73.1%
初老期における認知症	7.8%	3.8%
がん(末期)	6.3%	1.9%

介護保険システム 要介護認定管理

(高齢者支援課) 令和元年、5年5月

国保被保険者受診割合令和元年5月診療分より

国保被保険者受診割合令和4年5月診療分より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

本市の健康寿命には、脳血管疾患や高血圧等の循環器病、認知症、がんへの罹患状況等が影響していると考えられます。特に脳血管疾患の死因順位は、全国や県と比較しても高く、第2号被保険者が要介護状態となる原因の7割となっています。高血圧性疾患の受診割合も3割程度あることから、これらを予防する生活改善の取組が重要です。

表6 萩市の特定健康診査受診者尿中推定1日食塩摂取量

	男性	女性
令和2年度(特定健康診査2,501人)	12.2g	11.3g
令和3年度(特定健康診査2,951人)	12.2g	11.1g
令和4年度(特定健康診査2,949人)	11.9g	11.0g

1日食塩摂取目標量
 男：7.5g未満
 女：6.5g未満

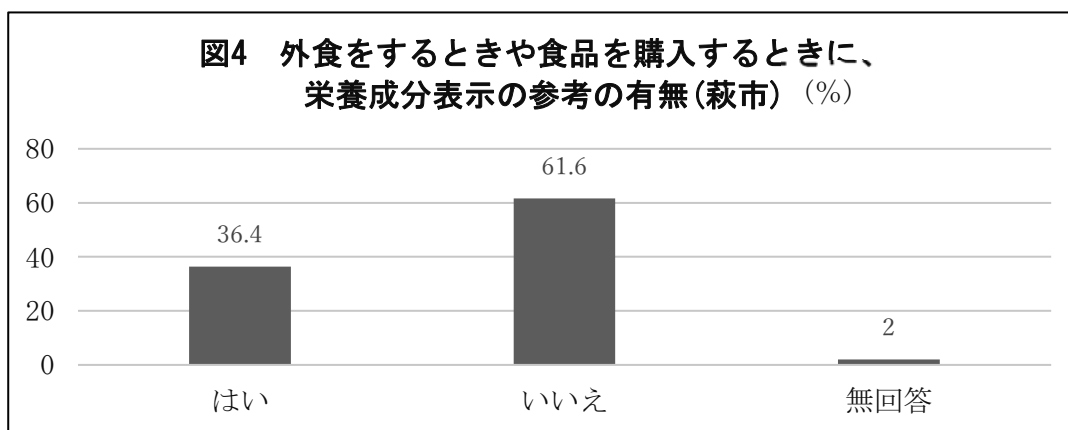
 日本人の食事摂取基準
 2020年版より

萩市国民健康保険データベースシステムより

表7 自分の食塩摂取量が自分の健康にちょうどよいと認識している割合(萩市)

やや多い	ちょうどよい	やや少ない	わからない	無回答
36.5%	36.0%	1.3%	23.7%	2.6%

令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

食生活改善推進員と共に集団健診の場やイベントの際にフードモデルやリーフレットを用いて、1日の食塩摂取目標量や節塩の取組について周知を図るなど、現在さまざまな節塩活動を実施しており、表6のように男女とも尿中推定1日食塩摂取量は減少傾向にはあります。しかし、依然として男女ともに目標量より食

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

塩を多く摂取しています。また、P205・表7のように自分の食塩摂取量が自分の健康に「ちょうどよい」と認識している人の割合が3割いるものの、「わからない」が2割程度となっています。また、P205・図4のように外食する時や食品を購入する時に、栄養成分表示を「参考にしない人」が「参考する人」と比較して多いことが分かります。

このことから、引き続き、日常的に節塩を意識した生活ができるように、日本人の食塩摂取の目標量を周知することや、栄養成分表示を参考にするなどの習慣づけができるように普及啓発していく必要があります。

表8 保護者の朝食を摂取する人の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
父親	65.7%	66.0%	66.5%
母親	84.7%	84.3%	83.0%

1歳6か月児・3歳児健診アンケートより

表9 朝食を週6日以上食べている人の割合(萩市)

	令和2年度	令和4年度
男性	79.8%	73.8%
女性	83.1%	79.3%

令和2年度萩市地域福祉・保健に関するアンケート
令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

表8のように子育て中の若い世代の朝食欠食者は、父親では3割から4割、母親では2割程度いることが分かります。また、表9のように全年代でも2割から3割程度朝食を欠食しています。

表10 1日30分以上運動習慣なしの人の割合

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
1日30分以上 運動習慣なし	63.3%	57.3%	60.3%	64.4%	57.6%	60.7%	64.0%	57.3%	60.4%

萩市国民健康保険データベースシステムより

運動習慣のない人は、全国や県に比べて多い状況が続いています。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

表11 この1か月毎日タバコを吸っている人の割合

	令和2年度	令和4年度
男性	19.3%	23.6%
女性	4.3%	6.4%

表12 タバコを吸っている人のうちやめたいと思っている人の割合

	令和2年度		令和4年度	
	やめたい	減らしたい	やめたい	減らしたい
男性	22.8%	45.7%	19.6%	47.8%
女性	45.2%	25.8%	35.3%	23.5%

令和2年度萩市地域福祉・保健に関するアンケート
令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

タバコを吸っている人のうち、男女とも「やめたい」、もしくは「減らしたい」と思っている人が、6割から7割程度となっています。

タバコの害について、妊娠届時や乳幼児相談の場、また、学校現場などで普及啓発をしつつ、禁煙したい人に対する相談窓口や禁煙外来についての情報をPRする必要があります。

表13 毎日飲酒する人の割合

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
毎日飲酒	28.0%	26.0%	25.8%	28.2%	25.7%	25.5%	27.0%	25.7%	25.5%

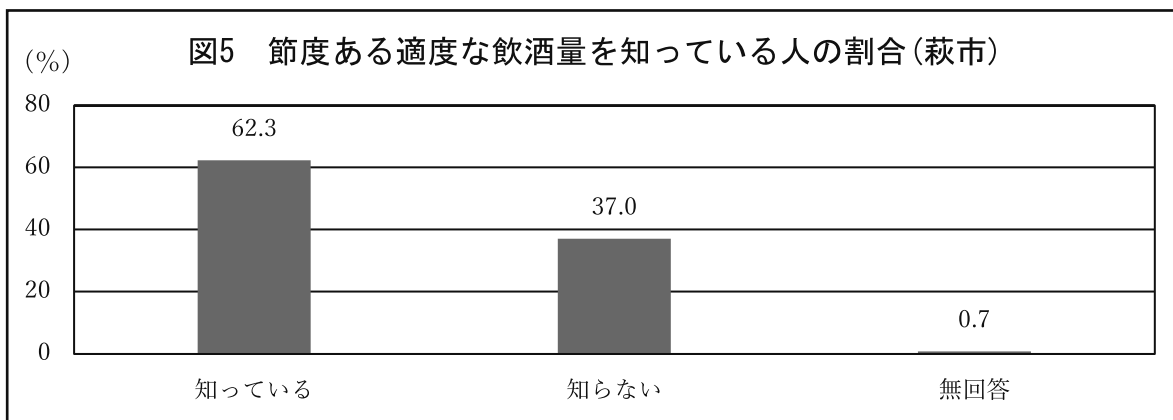
萩市国民健康保険データベースシステムより

適度な飲酒量

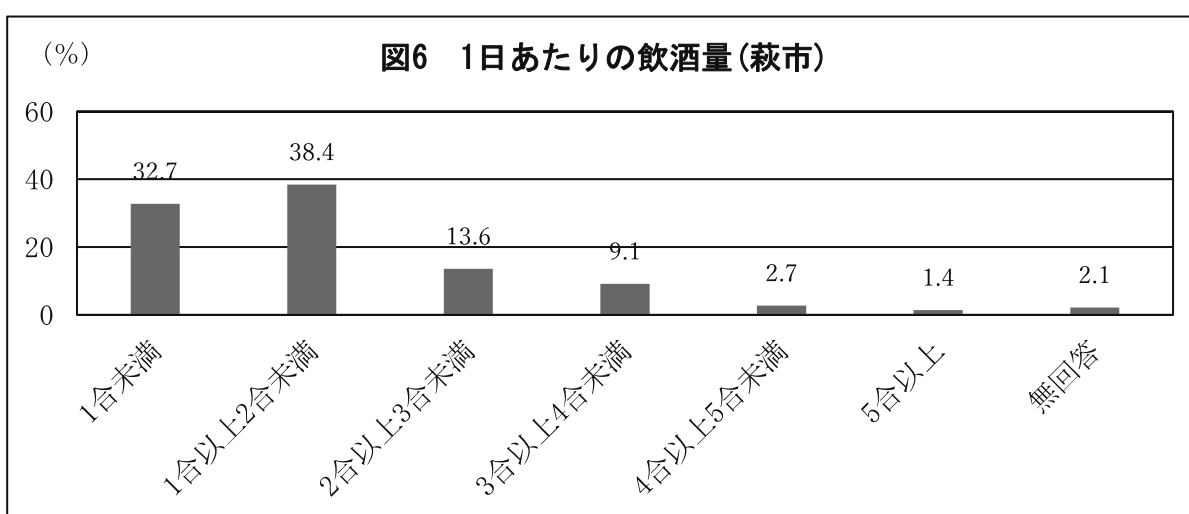
- ・ビール(5%)：中瓶1本 500ml
- ・日本酒(15%)：1合 180ml
- ・焼酎(35%)：0.6合 110ml
- ・ワイン(12%)：180ml
- ・ウイスキー(43%)：ダブル 60ml

厚生労働省より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

P207・表13のように、本市では、毎日飲酒する人の割合は、全国や県に比べて多い状況です。また、図5のように節度ある適度な飲酒量を知らない人の割合が4割近くいることや、図6のように飲酒量が1合未満の人は3割程度であり、1合以上飲んでいる人が多いことが分かります。そのため、節度ある適度な飲酒量を周知し、日頃から飲酒量の意識づけに向けた取組が必要です。

【課題に対する目標】

- ・市民が子どもの頃から自分の身体に関心を持つことができる。
- ・市民が正しい知識を持って、健康的な生活を身につけることができる。
- ・市民が健康的な生活習慣を確立することができる。

【取組】

- ① 若い頃からの朝食摂取率を上げるために、妊娠届時のアンケートへの質問項

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

目の追加、1歳6か月児・3歳児健診で朝食摂取の指導を継続強化します。ファミリー教室、保育所・認定こども園や学校での食育授業で、朝食摂取の必要性や時間短縮レシピを紹介します。

- ② 食塩摂取量の経年的な数値を比較できるようにデータの管理を検討するとともに、結果通知を見やすいように作成し意識づけを行います。
また、節塩の必要性や分かりやすく取り組みやすい節塩のパンフレットを作成し、保育所・認定こども園、学校、関係団体などに配布することにより情報提供を行います。
- ③ 血圧コントロールに向けて、自宅における血圧測定を勧めます。
また、気軽に血圧測定ができるよう機器の設置や、各地域のイベントや市役所などで実施している健康相談を活用して、血圧を測定し、コントロールの必要性について普及啓発を行います。
- ④ タバコ対策に関しては、妊娠届時や乳児相談の場、学校での性教育出前講座の中で、妊娠と喫煙について触れるなど、タバコの害を周知します。
校長会を通じて教職員の禁煙に関する個別支援の周知、県と協力し地域・職域連携会議などを活用した受動喫煙防止への取組を強化します。
また、すべての市民に向けて、5月31日の世界禁煙デーや禁煙週間に合わせ、禁煙相談の普及啓発を行います。
- ⑤ 飲酒に関しては、健康教室や出前講座などで適切な頻度や量について働きかけを行います。
- ⑥ 働き盛りの世代に対しては、地域職域連携推進協議会の場で、健康課題や取組について協議していきます。また、健康経営[※]の観点から商工会議所や商工会などにも働きかけ、健康づくりや生活習慣病予防に関する出前講座を実施します。
- ⑦ 生涯を通じて健康で元気に暮らすことができるよう、高齢者の保健事業と介護保険の地域支援事業との一体的な実施に取り組みます。

[※] 健康経営とは従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性を高める投資であるとの考えのもと、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

2 がん検診受診率の向上

【現状と課題】

表 14 がん検診受診率

年度	国		県		萩市		
	平成30年度	令和3年度	平成30年度	令和3年度	平成30年度	令和3年度	令和4年度
肺がん	7.1%	6.0%	4.6%	4.0%	4.9%	3.8%	3.7%
大腸がん	8.1%	7.0%	5.0%	4.6%	5.0%	5.2%	5.1%
胃がん	8.1%	6.5%	5.3%	4.6%	3.1%	2.6%	2.8%
乳がん	17.2%	15.4%	13.7%	13.1%	10.0%	7.6%	8.6%
子宮がん	16.0%	15.4%	16.8%	16.5%	10.3%	9.1%	9.6%

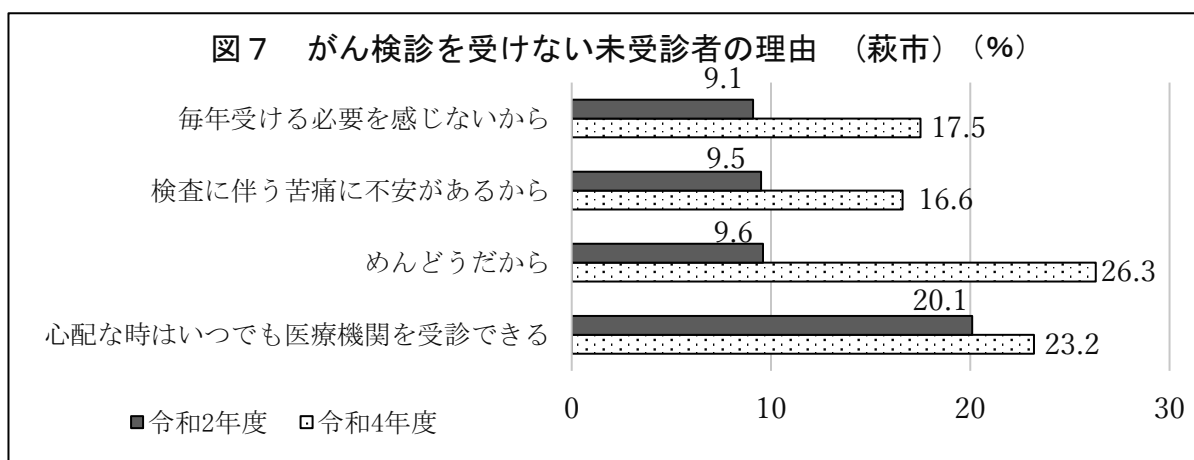
※国の「地域保健・健康増進事業報告」の算定対象年齢を40歳から69歳（胃がんは50歳から69歳、子宮がんは20歳から69歳）までとする。

※胃がん、乳がん、子宮がんの検診受診率は、隔年受診となるため以下の計算式となる。

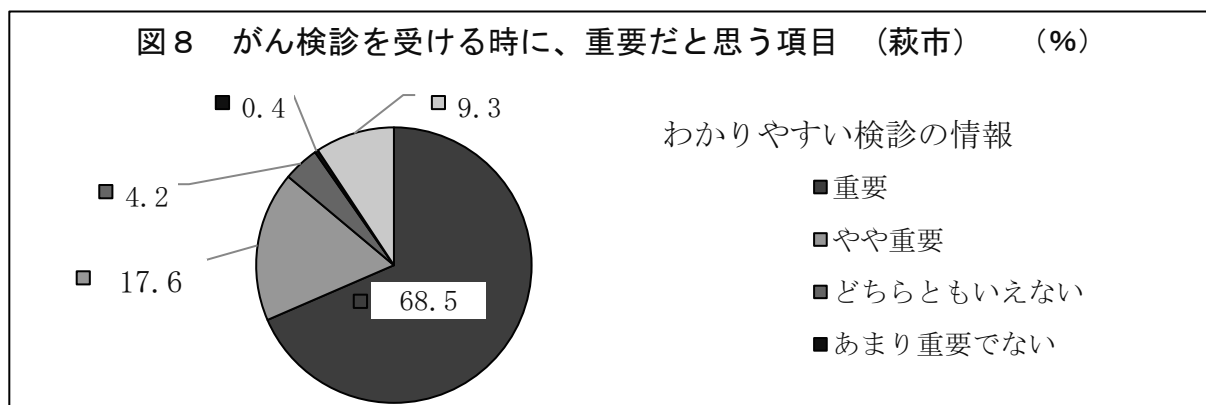
受診率＝（「前年度の受診者数」＋「当該年度の受診者数」－「前年度及び当該年度における2年連続受診者数」）÷「当該年度の対象者数×100

※令和4年度の肺がん、大腸がん・胃がんの受診率については推計値とする。

厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」、「萩市がん検診受診率」より



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

本市の死因割合の中で悪性新生物(がん)はP204・表3より24.9%と高い状況です。

がん検診受診促進協力事業所や保健推進員等との連携による受診勧奨活動、ポスター掲示等による周知の強化やウェブ予約の導入などにより、若い世代に向けた検診予約方法の導入など、受診率向上に向けてさまざまな働きかけを行ってききましたが、依然として、がん検診受診率が全国、県と比較して低い状況が続いています。

がん検診を受けない理由としては、「めんどうだから」、「心配な時は、いつでも医療機関を受診できるから」等、がん検診の必要性や早期発見・治療に向けた意識の低さが多く見られます。また、「費用がかかり経済的にも負担になるから」、「新型コロナの感染リスクが高まりそうだから」といった、経済的・環境的な要因も検診受診を妨げています。

P210・図8よりがん検診を受ける時に、重要だと思う項目において、「わかりやすい検診の情報」は、重要・やや重要が86.1%となっており、さらに受診行動につながりやすい周知方法の工夫が必要です。

また、社会保険被保険者・被扶養者における、受診機会のない人に対して「がん検診を受ける場の確保」が必要とされています。

【課題に対する目標】

- ・市民が、がん検診の目的や必要性を理解し、自分自身のこととして捉え、定期的に受診し、早期発見・治療につなげる。
- ・検診についての広報・周知を徹底し、分かりやすいがん検診の受診勧奨を行うことで、受診行動につなげるようにする。
- ・がん検診を受けやすい環境・体制づくりを整備する。

【取組】

- ① がん検診を受診しやすい環境の整備を行います。
 - a がん検診の必要性を市民に伝えるとともに、検診の受け方などを分かりやすく伝えられるように工夫した媒体を作成します。
 - b 地域職域連携推進協議会にがん検診受診率向上にむけて働きかけ、商工会議所や商工会等にごがん検診に関する普及啓発を行います。
 - c 未受診者への受診勧奨に取り組みます。
 - d 検診を受ける機会のない人へ、受診できる機会の確保に努めます。
 - e 市内事業所等のがん検診(職域健診)の実態を把握し、がん検診の体制

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

を検討します。

3 特定健康診査受診率の向上

【現状と課題】

表 15 特定健康診査受診率と健診有所見者[※]状況 (％)

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
受診率	25.3	29.9	33.5	30.3	31.8	36.1	32.7	33.4	37.1
メタボ	21.1	19.7	20.6	21.1	19.7	20.3	20.9	19.6	20.3
予備軍	13.0	11.1	11.5	12.7	11.0	11.4	12.0	11.0	11.2
血糖値 100 以上	32.2	27.4	25.1	32.0	27.0	25.1	32.6	26.5	24.8
LDL コレステロール 120 以上	57.6	57.8	53.3	56.5	56.3	52.9	55.8	52.8	50.3
ヘモグロビンA1c5.6 以上	80.2	53.0	56.0	75.4	51.7	56.4	77.4	51.8	57.1

萩市国民健康保険データベースシステムより

本市では、表15よりメタボリック症候群[※]、メタボリック症候群予備軍の割合が県・国と比較して32.9%と高く、血糖値、ヘモグロビンA1cなど血液等の検査での有所見者の割合も横ばいとなっています。特定健康診査受診率については、令和2年度はコロナ禍の影響を受けた初年度であり、健診受診率の低迷がみられました。

このような状況から、令和3年度より医師会に対して、健（検）診・特定保健指導・特定健診事後指導等の受診・参加勧奨を依頼、また、阿武町と協働し、特定健康診査受診率向上に向けた検討・協議を行い、新型コロナウイルス感染症予防ワクチン会場や市内医療機関で受診率向上のポスター掲示等を行いました。令和3年度、4年度においては受診率が持ち直したものの、国や県との比較では低い状況です。特定健康診査は、糖尿病などの生活習慣病の早期発見・治療につなげることができるため、引き続き特定健康診査受診率の向上を図ります。

※ 健診有所見者とは、定期健康診断等の結果、何らかの異常の所見が認められることをいう。

※メタボリック症候群とは、内臓脂肪型肥満に高血糖・高血圧・脂質異常症のうち2つ以上が合併した状態。

【課題に対する目標】

- ・市民が、健診の必要性を理解し毎年健診を受けることができる。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

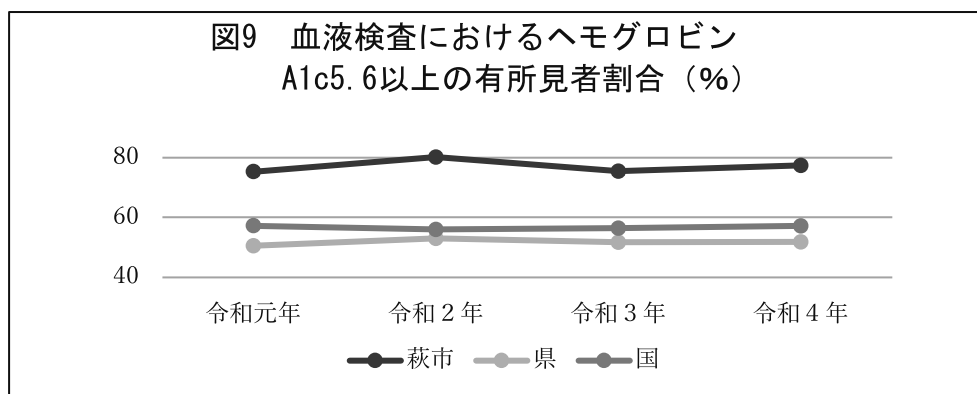
- ・市民が、健診の結果を自分のこととして捉え、健診を受けて終わりではなくこれからの健康づくりに役立てることができる。
- ・地域や医療機関が連携を取り、健診を受けやすい体制が整備できる。

【取組】

- ① 対象者が確実に健診を受けることのできる体制づくりに取り組みます。
 - a 広報活動を行うことにより、特定健康診査の意義や受診する必要性の周知を行います。また、特定健診未受診者勧奨事業（人工知能とソーシャルマーケティングを用いた技法）による、未受診者の受診履歴、年齢、性別、健診結果値、生活習慣から、健康意識に合わせたメッセージを送る等、効果的な受診勧奨を行い、受診率向上を図ります。
 - b 働き盛りの人が健診を受けやすい体制づくりに努めます。全国健康保険協会等と協働した健診機会の確保、地域・職域連携会議等を活用し、職場の健診体制の充実等、健診を受けやすい環境づくりを検討します。
 - c 治療中の人でも健診を受けられるよう、医師会の協力を得て受診勧奨に努めます。

4 有所見者への動機づけ

【現状と課題】



萩市国民健康保険データベースシステムより

表16 健診有所見者の特定保健指導実施率（％）

令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
18.6	17.3	29.3	16.4	12.8	27.9	11.4	14.8	27.9	17.3	15.5	

厚生労働省 特定健診・特定保健指導実施状況（保険者別）

国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

表17 特定健診事後教室

	回数	実人数	延人数
令和元年度	7	21	54
令和2年度	実施無		
令和3年度	2	14	26
令和4年度	4	15	46

萩市健康増進課実績より

表18 糖尿病予防教室

	回数	実人数	延人数
令和元年度	5	24	94
令和2年度	実施無		
令和3年度	1	13	13
令和4年度	4	30	92

萩市健康増進課実績より

P213・図9のように特定健康診査の血液検査におけるヘモグロビンA1cが5.6以上の有所見者の割合は高く横ばい傾向にあり、また県・国と経年比較（P212・表15）しても高い割合で推移しています。一方、このように有所見者が高い状況にありながらも、P213・表16のように特定保健指導につながる割合は低くなっています。表17のように特定健診事後教室の開催は、コロナ禍により中止もありましたが、令和3年からオンライン開催等参加しやすい体制づくりを行いました。実際に特定保健指導や教室に参加した人の多くは、生活習慣に変容があり効果がでていることから、特定健康診査の結果通知時など早い段階から関わりを持つことが必要です。

【課題に対する目標】

- ・ 健診の有所見者が確実に、早い段階から（健診結果通知時や教室の勧奨時等）指導を受け、健診結果・健康状態を把握し、生活改善に取り組むことができる。

【取組】

- ① 特定保健指導対象者が結果受取り時に確実に指導を受け、早い段階から生活改善に取り組める体制づくりに努めます。
 - a 健診結果返送時、受診者に結果の見方について周知します。
 - b 教室の勧奨方法、内容（目標設定の方法）の見直しと継続的な支援体制の充実に努めます。
 - c 健診結果数値の経年変化や検査数値と罹患するリスクとの関係を分かり

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

やすく説明し、自らの健康状態を意識できるような取組を推進します。

- d 医療機関と連携し、医療機関からも教室や特定保健指導に参加するように対象者に声かけをしてもらうなど、支援体制を整えます。
- ② 有所見者に対して、適切な運動、食事、治療が継続できるシステムを構築します。
 - a 特定保健指導や特定健康診査事後指導の教室等、動機づくりの場を提供して生活改善の支援を行います。
 - b 有所見者が参加しやすい教室づくりを行います。
 - c 医療受診が必要な有所見者に対し、受診を確実に促します。
- ③ 特定保健指導について、市民への分かりやすい周知を行います。
 - a SNS やケーブルテレビを活用して幅広い年齢層に周知を行います。
 - b 保健ガイドなど広報の表記を工夫します。
 - c 健診結果返送時、受診者に特定保健指導について周知します。

5 健康づくり活動の支援

【現状と課題】

表19 運動習慣の状況（1回30分以上の運動習慣なし）（％）

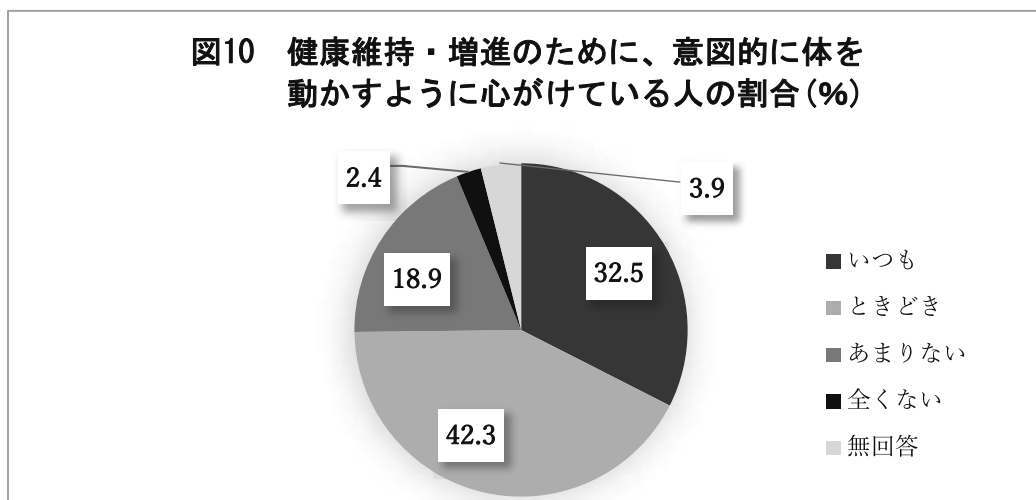
	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
40～74歳	63.3	57.3	60.3	64.4	57.6	60.7	64.0	57.3	60.4

萩市国民健康保険データベースシステム、特定健康診査質問票より

表20 世代別の運動習慣の状況（1回30分以上の運動習慣なし）（％）

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	萩市	県	国	萩市	県	国	萩市	県	国
45～49歳	76.6	74.3	73.9	69.6	72.5	73.2	66.7	72.5	74.1
55～59歳	75.7	69.6	71.2	77.0	70.0	70.7	77.7	68.8	69.8

萩市国民健康保険データベースシステム、特定健康診査質問票より



令和4年度健康づくりに関する県民意識調査より

運動習慣の状況を見ると、本市ではP215・表19、20によると「1回30分以上の運動習慣がない人」が令和4年度では6割であり、年代別の運動習慣の状況では働き盛りとなる55から59歳では国、県と比較して、運動習慣の確立ができていない人が多く、令和2年度から改善がみられません。このため、運動を始めるきっかけと継続できる体制づくりが重要です。

働き盛り世代が、健康づくりに向けて、日常生活の中で運動を意識して取り組めるように、引き続き「やまぐち健幸アプリ^{*}」等の利用促進やSNSを活用した健康づくりの情報発信を進める必要があります。

運動することで地域とのつながりが高まることも考えられるため、仲間と楽しく運動を継続できる支援をすることも必要です。

^{*} やまぐち健幸アプリとは、ウォーキングや健(検)診の受診などを記録してポイントをためることができるスマートフォン用アプリです。

【課題に対する目標】

- ・働き盛り世代の人が運動等を生活の中に取り入れることができ、運動習慣を定着することができる。
- ・健康づくり応援隊や既存の教室参加者が、取り組む楽しさや効果を実感でき、継続して健康的な生活を送ることができる。

【取組】

- ① 働き盛り世代の人が運動を始めるきっかけをつくり、運動習慣が定着するための支援を行います。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

- a 働き盛り世代への支援、一人でも継続できる支援として、地域の社会資源の活用を視野に入れ、市内の健康教室やスポーツクラブ等の情報提供を行います。
 - b SNS やケーブルテレビを活用し、幅広い年齢層に向けての情報発信を行います。
- ② 仲間とともに継続して、運動等を生活の中に取り入れられる体制づくりをします。例えば、健康づくり応援隊や各地域の健康教室、健康づくり応援隊主催の交流ウォーキングや中央公園での体操等の回数や参加者の延べ人数の増加を図ります。
- a 運動を継続できる支援として、健康づくり応援隊活動や、各地域の健康教室、老人クラブ、サロン活動を継続的にを行います。
 - b 継続した支援ができるよう既存の教室等の受け皿づくり（自主グループ化）や健康づくり応援隊活動の強化に努め、教室終了時には参加者が一緒に継続して運動等ができるように声かけを行います。
 - c 健康づくり応援隊が、ウォーキングや体操の楽しさを伝え、仲間を増やし、活動を広げるための支援に努めます。
 - d 「地域包括支援センター」との協働により、認知症予防・介護予防のため、地域の健康教室やサロンなどの予防活動を実施します。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

6 重症化の遅延

【現状と課題】

表 21 生活習慣病のレセプト分析 (令和4年10月) 国保+後期診療分

	被保険者数	生活習慣病対象者		糖尿病		高血圧		脂質異常症	
	人数 A	人数 C	C/A	人数 E	E/A	人数 L	L/A	人数 N	N/A
40 歳代	884	228	25.8%	40	4.5%	58	6.6%	57	6.4%
50 歳代	1,053	410	38.9%	93	8.8%	157	14.9%	147	14.0%
60～64 歳	1,106	515	46.6%	143	12.9%	273	24.7%	257	23.2%
65～69 歳	2,546	1,366	53.7%	450	17.7%	833	32.7%	703	27.6%
70～74 歳	4,111	2,670	64.9%	896	21.8%	1,778	43.2%	1,373	33.4%
75～79 歳	3,557	2,676	75.2%	947	26.6%	1,865	52.4%	1,401	39.4%
80～84 歳	2,964	2,409	81.3%	825	27.8%	1,745	58.9%	1,232	41.6%
85～89 歳	2,354	1,969	83.6%	626	26.6%	1,540	65.4%	905	38.4%
90 歳以上	1,698	1,393	82.0%	325	19.1%	1,083	63.8%	560	33.0%
合計	20,273	13,636	67.3%	4,345	21.4%	9,332	46.0%	6,635	32.7%

萩市国民健康保険データベースシステム
山口県後期高齢者医療広域連合データベースシステムより

表 22 総人工透析者数 (人)

	国保	後期	合計
令和2年度	46	48	94
令和3年度	50	48	98
令和4年度	52	50	102

表 23 新規人工透析者数 (人)

	40～74 歳	75 歳～	合計
令和2年度	12	12	24
令和3年度	16	21	37
令和4年度	12	8	20

萩市国民健康保険データベースシステム
山口県後期高齢者医療広域連合データベースシステムより (参考)

本市では、国保被保険者の内、生活習慣病で治療を受けている人は、表 21 によると 40 歳以上では 67.3%であり、1.5 人に 1 人は治療を受けています。その内訳は、40 歳以上で糖尿病 21.4%、高血圧症 46.0%、脂質異常症 32.7%です。

糖尿病などの生活習慣病は、放置するとさまざまな合併症を引き起こし、患

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

者のQOL（生活の質）を著しく低下させるのみならず、医療費を増大させる要因となります。

また、糖尿病を原因として人工透析をしている人は少なくありません。P218・表23のように令和2年度から令和4年度で新たに人工透析を開始した人は、年間平均27人となっています。

一方、生活習慣病は、適切な治療と生活習慣の改善により、予防することや進行を抑えることが可能な病気です。このため、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に基づき、糖尿病が重症化するリスクが高い人に対し、「かかりつけ医」と連携しながら、生活習慣改善のための保健指導を実施するとともに、医療機関への未受診者に対する受診勧奨を行うなど生活習慣病の重症化予防の取組を推進しています。重症化予防の取組については、事業の必要性や対象者の情報提供・共有等、医師会の協力を得ることが必須であるため、医師会との連携体制を強化します。

【課題に対する目標】

- ・受診が必要な人や治療中の人が確実に治療を継続するとともに、生活習慣の改善をし、重症化を予防できる。
- ・関係機関と連携し、重症化予防のための支援ができる。

【取組】

- ① 受診勧奨後の受診把握を徹底するためレセプト情報等で追跡把握し、未受診者には再度勧奨を行います。
- ② 重症化予防事業対象者へ参加の勧奨を行い参加者の増加を図ります。
- ③ 重症化予防事業を終了した受講者の行動変容の維持に向け、関係機関と連携しフォロー体制の確立を図ります。

基本目標3 全ライフステージを通じた重要分野の推進

1 こころの健康づくりの推進

生きいきと自分らしく生きるためには、一人ひとりのこころの健康づくりだけでなく、社会全体の取組が必要です。

本市では、「萩市自殺対策計画」を策定し、市民一人ひとりがこころ豊かに過ごせる社会を目指した取組を行います。

- ・地域におけるネットワークの強化、自殺対策を支える人材の育成、市民への啓発と周知、生きることの促進要因への支援、児童生徒のSOSの出し方に関する教育を通じて、市民の誰もが自殺に追い込まれることのない社会を実現することを目指します。

2 歯科保健の推進

【現状と課題】

表24 萩市の歯科保健事業実績

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
妊婦歯科健診 受診率(%)	45.8	43.3	48.5	57.6	52.8	56.7
5か月児相談 相談率(%)	79.2	76.9	87.8	81.4	54.8	75.5
10か月児相談 相談率(%)	79.3	74.9	84.4	81.7	48.0	72.4
1歳6か月児健診 歯科受診率(%)	97.0	96.2	89.6	90.9	84.1	97.3
3歳児健診 歯科受診率(%)	93.2	94.0	95.1	99.5	81.0	94.2
成人歯周疾患検 診(人)	24	17	11	9	8	15

萩市健康増進課実績より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

表 25 萩市の歯科保健関連統計

(%)

	項目	平成	平成	令和	令和	令和	令和	
		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
幼児期	1歳6か月児健診の虫歯保有率	萩市	0.9	2.2	1.7	1.1	1.7	0
		県	1.7	1.6	1.2	1.3	0.9	—
	3歳児健診の虫歯保有率	萩市	18.8	26.4	17.8	19.9	22.6	15.8
		県	18.4	19.6	17.6	15.8	14.4	—
学童期	小学生虫歯の無い子	萩市	79.8	81.1	79.9	83.9	85.7	86.4
	小学生虫歯の無い子	県	80.6	81.6	81.9	84.3	84.1	84.9
	歯肉炎を有する子	萩市	—	—	19.0	—	—	—
	歯肉炎を有する子	県	—	—	10.6	—	—	—
思春期	中学生虫歯の無い子	萩市	70.4	75.6	80.5	84.2	78.1	76.5
	中学生虫歯の無い子	県	63.4	63.7	65.3	68.4	69.4	71.7
	歯肉炎を有する子	萩市	24.0	22.4	19.0	23.8	26.4	22.8
	歯肉炎を有する子	県	21.2	21.2	21.0	19.1	20.0	17.8
成人期	いつも野菜を食べる		57.3	—	63.3	—	—	54.9
	主食、主菜、副菜がそろった食事を1日2回以上とる		47.3	—	59.3	—	—	47.5
	この1年間に、歯科検診を受けた		53.6	—	57.1	—	—	57.7

山口県歯科医師会「山口県子どもの歯科保健統計」

山口県子ども政策課「山口県の母子保健」、「健康づくりに関する県民意識調査」より

表 26 妊婦歯科健診結果内訳

	単位	虫歯あり	歯石あり	歯肉炎	歯周炎	受診総数
令和2年度	人	35	59	47	14	102
	%	34.4	57.9	46.1	13.7	—
令和4年度	人	41	52	40	14	85
	%	48.2	61.1	47.1	16.5	—

妊婦歯科健診実績（萩市健康増進課分）より

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

P220・表24のように、妊婦歯科健診の受診率は、令和2年度以降は半数を超えています。令和4年度も同程度の受診率を維持していますが、新型コロナウイルス感染症の影響か、伸び悩んでいます。P221・表26によると受診者のうち、口腔の状態で何らかの所見（歯石・歯肉炎）を半数程度が有しています。P221・表25によると3歳児歯科健康診査では、県平均と比べると虫歯を有する者の割合が高く、学童期、思春期は虫歯の無い子の割合が高くなっています。

また、思春期では、歯肉炎を2割近くが有しています。成人期の1年間における歯科検診受診者は、57.7%と半数程度となっています。

虫歯や歯肉炎、歯周疾患の予防のために、保育所・認定こども園や学校、歯科医院と連携し、日頃のブラッシング等の自分自身で行うメンテナンスとフッ化物の塗布や定期的な歯石除去等、「かかりつけ歯科医」でのプロケアが重要となってきます。

元気な高齢者は自分の歯を多く有しており、若い頃から根菜類を積極的に摂取するなど、よく噛む食生活習慣があり、幼少期からの虫歯予防を含めた噛む習慣づけが重要です。

本市では妊娠期から乳幼児期、学童期、思春期においては母子保健から学校の歯科保健、40歳以上の青壮年期、高齢期においては歯周疾患検診や口腔ケア事業が行われています。切れ目のない支援を行う上で、歯科保健関係機関との連携は必要不可欠ですが、歯科保健従事者間の認識や意識に多少の差異があるのが現状です。

そのため、歯科保健関係に携わるすべての関係者の知識・意識の向上と共通理解を図るための機会が必要です。

また、高校卒業から青年期までの歯科保健については施策が少なく、歯科保健サービスに隙間ができています。歯科保健関係団体・組織は、生涯を通じた歯科保健事業の観点から、今後も切れ目のない連携を行う必要があります。

【課題に対する目標】

- ・市民が生涯を通じて自ら口腔ケアの意識をもち、歯科健診を受け、歯磨き、う歯（虫歯）・歯周疾患の予防に取り組める。
- ・幼少期からしっかり噛んで食べる習慣づけができ、高齢になっても自分の

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

歯で噛み、楽しく食事ができる。

- ・ 歯科保健の関係団体・組織が連携し、市内で一貫した歯科保健が推進できる体制づくりに取り組む。

【取組】

- ① 妊娠期から歯科保健に関心を持てるよう効果的な歯科保健指導を導入します。
 - a 妊娠届出時、妊婦訪問、教室時に歯科保健指導を組み込みます。
- ② 乳児相談、幼児健診、歯科保健出前講座等の歯科保健指導を強化します。
 - a 5・10か月児健康相談、1歳6か月児健康診査時、3歳児健康診査時にあわせ、幼少期から歯質の強化、かかりつけ歯科医を持ち、定期的なメンテナンスの機会を設けるなど予防歯科への意識づけ、動機づけになる歯科保健指導を行います。
 - b 歯科衛生士による保育所・認定こども園等へのアウトリーチ型「歯科保健出前講座(歯っぴい出前講座)」の実施で、歯科保健指導を強化します。
 - c 学校現場と協力して、自らが効果的な口腔ケアに取り組めるように、正しいブラッシング方法を周知し、歯肉炎・歯周病予防に取り組めます。
- ③ 市民がかかりつけ歯科医を持ち、歯科保健の必要性を理解し、歯周疾患検診、治療を適切に受け、予防行動を起こせるようにPR活動を強化します。
 - a 食生活改善推進員・保健推進員・健康づくり応援隊など、自らが歯科保健の関心を高め、健診の受診を促します。
 - b 市広報誌やホームページ、SNS やケーブルテレビを活用した施策の周知や、歯科医師会や協賛企業と協働した普及啓発及び各種イベント会場等での健口相談を実施し、歯科保健のPRに努めます。
- ④ 大学等への進学や社会人になる節目の時期に口腔メンテナンスができるような歯科保健指導を行います。また、働き盛りの職域でも事業所などと連携し、歯科保健指導を実施します。
- ⑤ 子育て中の親が、噛むことを意識した食事を子どもに出せるように働きかけます。
 - a 乳児相談や幼児健診では、食習慣の形成、咀嚼等の口腔機能を獲得するために「噛む」ことにポイントを置いた一貫した個別指導を歯科衛生士と管理栄養士が行います。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

- ⑥ 保育所・認定こども園、小中学校と連携し、歯科保健や食育の観点から、しっかり噛んで食べる食生活の習慣づけができるような食育事業に取り組みます。
- ⑦ 食生活改善推進協議会が食生活の復伝を、保健推進協議会が地域で行う子育て輪づくり活動や訪問活動を通じて、歯科保健の伝達や噛むことをテーマにした取組を行います。また、青壮年期から高齢期においても、オーラルフレイル予防の観点から、口腔ケアや口腔機能の維持向上に向けて、健康教室等で口腔ケアや噛む必要性の啓発やパタカラ体操等お口の体操を推進します。
- ⑧ 歯科保健に関係するすべての関係機関が一堂に会する協議・検討の場を設けます。
 - a 「萩市歯科保健関係機関連携会議」等を開催し、協働して本市の歯科保健事業に取り組む体制づくりを推進します。
- ⑨ 歯科保健関係機関の連携のもと、それぞれの役割を認識し、生涯を通じた切れ目のない歯科保健サービスを実施していく仕組みづくりを検討します。
 - a 歯科保健関係者の予防歯科に対する意識の変容と向上を図るために歯科保健関係者研修会を開催します。
 - b 高校や職域への歯科保健連携の必要性があるため、市内高校と養護教諭などを通じ、また、事業所等へは商工会議所などを通じて連携を図ります。

3 感染症予防の推進

【現状と課題】

令和2年からの新型コロナウイルス感染症への対策を踏まえ、従来の感染症や今後に起こりうる新興感染症も含めて、感染症の発生予防やまん延防止のためには、平時から迅速かつ的確に対応できる対策が重要となります。

感染症の発生情報を正確に把握し、行動計画やマニュアル等に基づき、平時からの感染症の発生予防やまん延防止に重点を置いた事前対応ができる対策を推進していく必要があります。

また、感染症の発生の状況、動向及び原因に関する情報を国・県や関係機関から収集し、必要な情報を市民へ積極的に提供し、「市民一人ひとりにおける感

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

感染症予防」の推進による地域全体の予防を推進していくことが重要です。

さらに、感染の発生時には地域へまん延する可能性があり、市民の健康を守るための健康危機管理の観点に立った迅速かつ的確な対応が求められます。そのため、感染症の発生状況等の把握が不可欠であり、庁内関係部署や管轄保健所、医師会等の関係団体と連携し、迅速かつ的確に対応できる体制を整えておく必要があります。

【課題に対する目標】

- ・ 感染症の発生予防やまん延防止に重点を置き、事前対応の対策の推進。
- ・ 市民一人ひとりにおける感染症予防の取組により、地域全体の予防の推進。
- ・ 感染の発生時において関係団体と連携し迅速かつ的確に対応できる体制の整備。

【取組】

① 予防接種の推進

医師会等との十分な連携を行い、定期予防接種の推進や対象者が接種をより安心して受けるために環境の整備を行い、接種率の向上を図ります（予防接種法第5条1項）。

また、感染症のまん延防止のため、緊急的に予防の必要がある時には、臨時の予防接種を実施します（予防接種法第6条3項）。

なお、小児の感染症予防を推進するため任意予防接種についても、必要な情報提供を行います。

② 感染症予防に係る行動計画等の整備

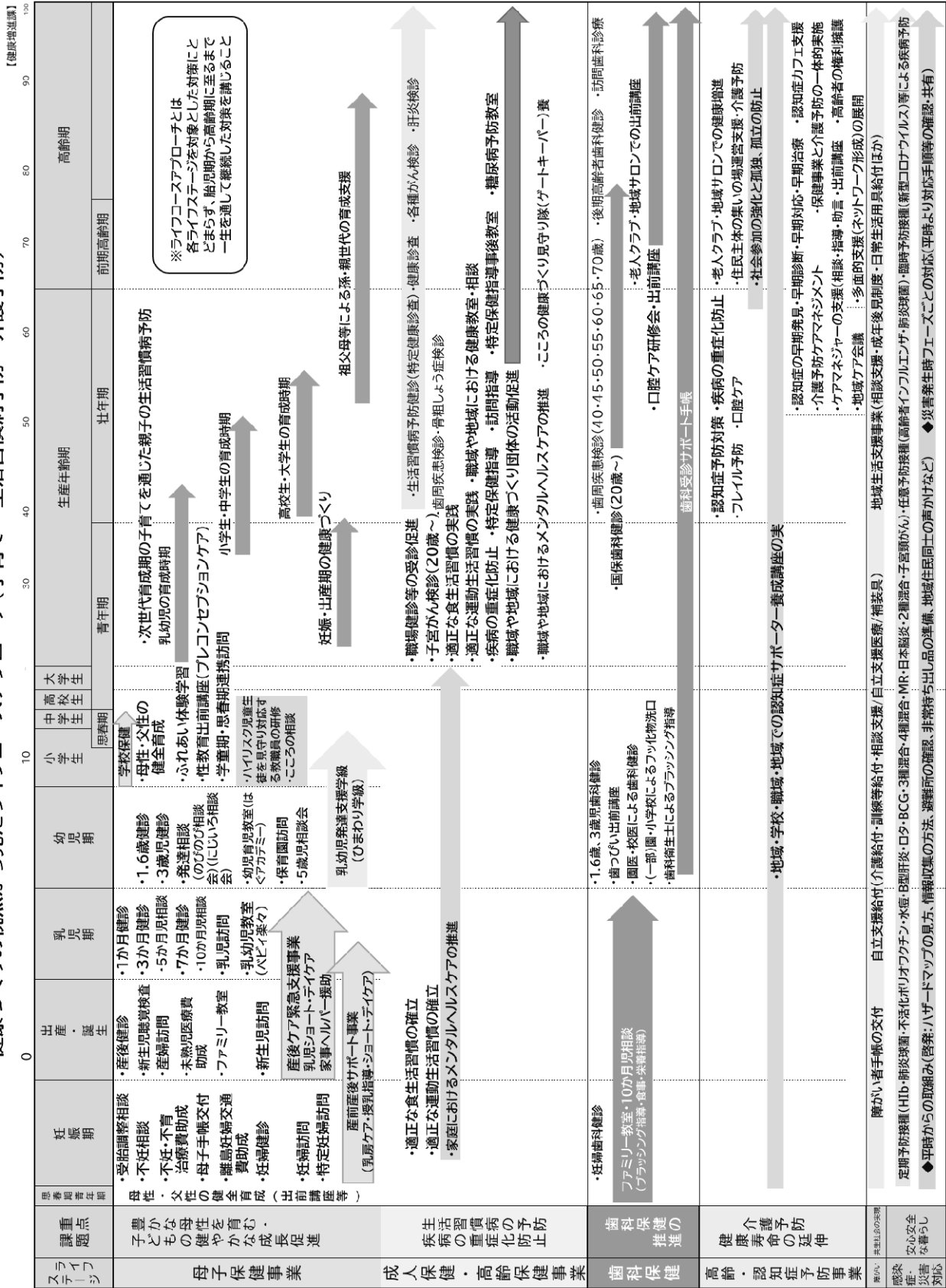
感染症対策に係る「萩市新型インフルエンザ等対策行動計画」等の見直しや整備を行い、新型コロナウイルス感染症のような重大かつ緊急性のある感染症の発生または発生のおそれがある場合であっても、速やかに健康危機管理体制が始動できるよう、平時から準備を整えます。

③ 感染症予防対策における関係機関及び関係団体との連携

感染症の予防を効果的かつ効率的に進めていくためには、県や管轄保健所、庁内関係部署が適切に連携を図ることを基本に、医師会をはじめとした関係機関とも連携を強化します。

Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はび21萩市保健計画」

健康づくりの視点から見たライフコースアプローチ(子育て～生活習慣病予防～介護予防)



Ⅲ 部門別計画 第4章 保健計画「健康はぎ21萩市保健計画」

健康づくりの目標の一覧表

分野	指 標	性別等	単 位	萩 市								出典元	目標値 R8度									
				国		山 口 県		初期値		中間評価値												
				数値	年度	数値	年度	数値	年度	数値	年度											
健康寿命 の延伸	健康寿命	男性	歳	72.14	H28	79.86	H30	79.93	H30	79.60	R2	県健康増進課 調査	伸ばす									
		女性		74.79		84.16		83.11		85.34												
	男性	81.25		H30	80.93	81.20		80.93														
	女性	87.32			86.04	85.49		87.23														
がん検 診受診 率	胃がん検診	男性	%	8.1	H30	5.3	H30	3.1	R元	2.8	R4	地域保健健康 事業報告	伸ばす									
		女性												7.1	4.6	4.7	5.1	9.6				
	肺がん検診	男性																	8.1	5.0	5.2	9.6
		女性																				
	大腸がん検診	男性																	17.2	13.7	9.5	8.6
	女性																					
循環 器疾患	特定健診受診率	全体	%	36.1	R元	30.3	R元	28.4	R元	32.7	R4	国保データベ ースシステム	50%									
	特定保健指導実施率	全体											11.2	7.2	3.8	17.3	35%					
	収縮期血圧130mmHg以上 の人の割合の減少	男性											48.9	52.1	52.4	51.4						
		女性											42.9	46.9	46.7	49.3						
	LDLコレステロール 120mg/d以上の人の割合 の減少	男性											48.2	51.0	50.2	55.8						
		女性											57.5	60.4	64.8	60.4						
メタボ該当者及び予備軍 の減少	全体	30.2	28.8	30.4	32.9																	
糖尿病	糖尿病増加の抑制	全体	%	8.4	R元	8.7	R元	7.2	R元	9.3	R4	特定健診	減らす									
こころ の健康	自殺死亡率	全体	10万対	17.6	H26- 30平均	16.8	H26- 30平均	15.4	H26- 30平均	13.5	R4	内閣府	15%減									
次世代 の健康	1歳6か月児健診受診率	全体	%	96.5	H30	97.7	H30	96.2	H30	97.3	R4	萩市実績	100%									
	3歳児健診受診率	全体	%	95.9	H30	95.2	H30	94.0	H30	94.7	R4											
	毎日朝食を摂取する子の 割合(小5)	男子	%	82.2	R元	86.6	R元	76.6	R元	83.2	R4	全国体力・ 運動能力、 運動習慣等調 査	増やす									
女子		82.3												87.1	86.7	78.2						
栄養・食 生活	BMIが25.0以上 40歳以上女性	女性	%	21.6	R元	19.0	R元	21.1	R元	21.7	R4	特定健診	減らす									
身体活 動・運動	日常生活で意識的に体 を動かすように心がけ ている人 (いつも・ときどき)	全体	%	35.9	H29 国は 運動 習慣	70.6	H29	73.8	R2	70.6	R4	県：健康づくり に関する県民意 識調査 国：国民健康栄 養調査	増やす									
		男性												71.6	74.9	71.8						
		女性												28.6	69.6	73.4	69.3					
休養	睡眠による休養が十分 に取れていない人	全体	%	20.2	H29	35.6	H29	32.2	R2	34.1	R4		減らす									
飲酒	節度ある適度な飲酒を 知る人(1合/日)	男性	%	69.2	H20	58.6	H29	59.1	R2	62.3	R4		増やす									
		女性												71.7								
喫煙	成人の喫煙率の減少	男性	%	17.7	H29	28.2 7.1	H29	12.1	R2	15.6	R4		減らす									
女性																						
歯・口腔 の健康	3歳でう蝕なし	全体	%	83.0	H27	80.4	H30	82.2	R元	84.2	R4	萩市実績	増やす									
	12歳でう蝕なし	全体	%	64.5	H28	68.9	R元	81.8	R元	78.2	R4	学校歯科保健	増やす									
	過去1年間に歯科検診 受診(20歳～)	全体	%	77.1	H28	51.6	H29	57.1	R2	57.7	R4	県：健康づくり に関する県民意 識調査 国：国民健康栄 養調査	増やす									